

障害のある方のスポーツ実施状況

●過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション実施率は48.1%

平成30年度の54.2%より6.1ポイント減となった。

●「週に1日以上」の実施率は36.7%

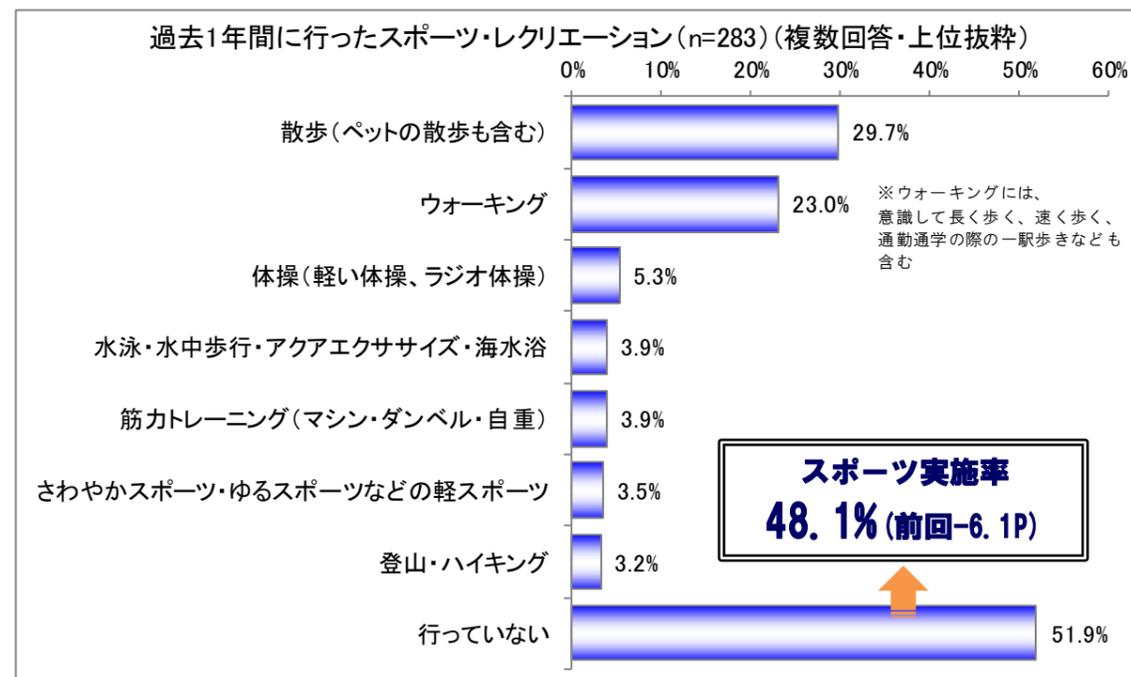
平成30年度の38.5%より1.8ポイント減、横浜市スポーツ推進計画の目標（40%）には3.3ポイント及ばなかった。

●過去1年間に行ったスポーツ・レクリエーション

1位「散歩（ペットの散歩も含む）」（29.7%）、2位「ウォーキング」（23.0%）、3位「体操（軽い体操・ラジオ体操）」（5.3%）となった。

●実施動向

実施理由は「健康・体力の維持、増進」（66.9%）が最も高い。スポーツ・レクリエーションを行う際の障壁について「特にない」（43.8%）、「体力がない」（19.8%）が上位となった。



III おわりに

今回の調査では、スポーツへの関わり方（「する」「みる」「ささえる」）の中でも、「みる」・「ささえる」スポーツを中心とした調査を行った。スポーツの観戦者と非観戦者、スポーツボランティア活動への参加者と非参加者では、運動・スポーツへの意識や関わり方、スポーツ実施率も異なることが示された。スポーツを実施するだけでなく、観戦やボランティア活動等も含めて、スポーツに親しむ人口の拡大に向けて対象に合わせたアプローチを考えることが引き続き求められる。また、令和元年はラグビーワールドカップ2019™が開催され、市民の観戦状況やラグビーへの関心の高まり等が確認された。

IV 報告書について

報告書(PDF)は、横浜市体育協会ホームページにて公開しています。報告書では、単純集計の他、性別、年代別、性・年代別、区別のクロス集計結果等も掲載していますのでご参照ください。

公益財団法人 横浜市体育協会

〒231-0015 横浜市中区尾上町6-81 ニッセイ横浜尾上町ビル内

電話/045-640-0016(経営企画部) FAX/045-640-0021(代表)

http://www2.yspc.or.jp/ysa/



公益財団法人横浜市体育協会は、横浜市民の体育・スポーツを振興し、もって横浜市民の健全な心身の発達と明るく豊かな市民生活の形成に寄与することを目的に活動している団体です。
各種目の市民大会・マスターズ大会の開催、子どもの体力向上事業・高齢者の介護予防事業の開催、市内スポーツ施設の運営・教室事業の開催など、幅広くスポーツ振興事業を実施しています。

令和元年度 横浜市民スポーツ意識調査報告書 概要版

本調査は、横浜市民の成人の方を対象に、スポーツに関する実施状況やご意見・ご要望等をお聞きし、今後のスポーツ振興に役立てることを目的として、平成19年度から毎年実施しているものです。

この概要版は、報告書の内容から主なものを抜粋してまとめたものです。

I 調査概要

- 1 目的 横浜市民のスポーツに対するニーズや行動・意識を調査し、スポーツ振興事業の現状と課題を考察する
- 2 対象者 (1) 横浜市に居住する満20歳以上の調査機関(株式会社クロス・マーケティング)の登録者(モニタ)の男女個人2,585人
(2) 横浜市に居住する満20歳以上で本人もしくは同居の家族に障害のある調査機関(同上)登録者(モニタ)の男女個人315人
- 3 抽出方法 (1) 性別、年齢、居住区の構成比率を基にモニタの中から有意抽出法により抽出
(2) モニタの中から有意抽出法により抽出
- 4 調査方法 インターネットによるアンケート調査
- 5 調査協力 公立大学法人横浜市立大学データサイエンス学部
- 6 調査期間 令和元年10月18日～10月30日
- 7 回収状況 (1) 有効回答数:2,585件 (2) 有効回答数:283件

II 結果概要

運動・スポーツや健康への意識

●スポーツ（する・みる・ささえる）への感じ方

「することが好き」（37.6%）、「観ることが好き」（45.2%）、「支える活動が好き」（4.1%）、「好きではない」（33.9%）となった。

●運動・スポーツや健康への意識

「スポーツ実施状況への満足度」は50.0%、「運動不足だと感じている（やや感じている含む）」割合は76.2%、「現在、健康だと感じている（やや感じている含む）」割合は57.4%となった。

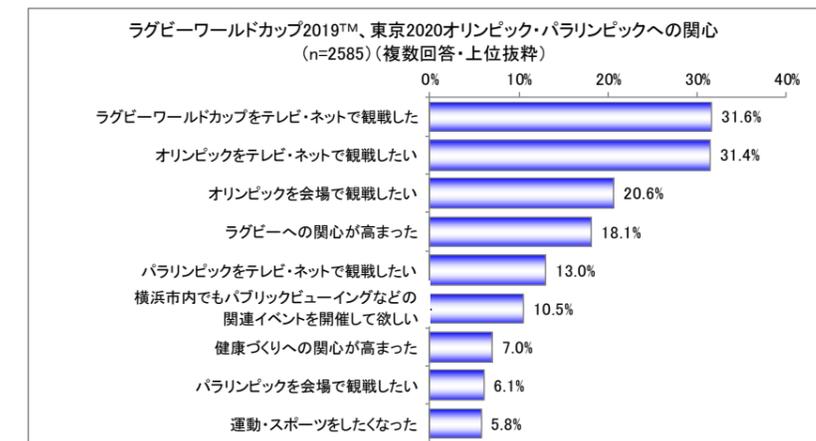
ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックへの関心について

●ラグビーワールドカップ2019™への関心

大会の観戦状況は「ラグビーワールドカップをテレビ・ネットで観戦した」（31.6%）、「会場で観戦した」（3.8%）となった。「ラグビーへの関心が高まった」と回答した割合（18.1%）は平成30年度の2.9%から向上した。

●東京2020オリンピック・パラリンピックへの関心

「オリンピックをテレビ・ネットで観戦したい」（31.4%）、「オリンピックを会場で観戦したい」（20.6%）、「パラリンピックをテレビ・ネットで観戦したい」（13.0%）となった。



「する」スポーツ ～スポーツ実施率・スポーツ実施状況～

- 過去1年間の運動・スポーツ実施率は75.0%
平成30年度の76.2%より1.2ポイント減となった。運動・スポーツを行わなかった割合は25%で、そのうち「関心はあるが行っていない」が9.7%、「関心がないため行っていない」が15.3%となった。
- 「週に1日以上」のスポーツ実施率は55.8%
平成30年度の56.3%より0.5ポイント減、横浜市スポーツ推進計画の目標（65%）には9.2ポイント及ばなかった。
- 「週に3日以上」のスポーツ実施率は29.1%
平成30年度の28.9%より0.2ポイント増、横浜市スポーツ推進計画の目標（30%）には0.9ポイント及ばなかった。
- 過去1年間に行った運動・スポーツ
1位「ウォーキング」（44.3%）、2位「散歩（ペットの散歩も含む）」（37.7%）、3位「ラジオ体操などの健康体操・美容体操・ストレッチ」（16.1%）となった。

「みる」スポーツ ～スポーツ観戦率・スポーツ観戦状況～

- 過去1年間の会場での観戦率は30.2%
平成30年度の31.7%より1.5ポイント減、横浜市スポーツ推進計画の目標（50%以上）には19.8ポイント及ばなかった。会場での観戦を行わなかった（非観戦者）割合は69.8%で、そのうち「関心はあるが観ていない」（以下、関心あり）が36.2%、「関心がないため観ていない」（以下、関心なし）が33.6%となった。
- 過去1年間に会場で観戦したスポーツ種目
1位「野球・ソフトボール」（14.3%）、2位「マラソン（駅伝も含む）」（7.6%）、3位「サッカー・フットサル」（6.3%）となった。4位の「ラグビー」（4.1%）は昨年度の10位から向上した。
- 観戦動向
観戦理由は「好きな種目・競技だから」（60.8%）、観戦に行った相手は「配偶者・恋人」（41.0%）が最も高い。今後観戦を希望する種目は「ラグビー」（13.4%）が1位（昨年度8位）となった。
- スポーツの観戦者と非観戦者の特徴
「観戦者」は「男性」や「正社（職）員」の割合が「非観戦者」よりも高く、「非観戦者」は「女性」、「専業主婦（夫）」や「無職」の割合が「観戦者」に比べ高い。スポーツ実施率（週に1日以上）は、「観戦者」（66.1%）が「非観戦者」（「関心あり」が63.3%、「関心なし」が38.4%）よりも高い。
「非観戦者」のうち、「関心あり」は今よりも観戦に出かけるようになるきっかけとして「チケットが手に入れば」（40.3%）等を回答した一方で、「関心なし」は「どのようなきっかけがあっても観戦には行かない」（77.1%）が大半を占めた。

「ささえる」スポーツ ～スポーツボランティア活動への参加率・活動状況～

- 過去1年間に行ったスポーツボランティア活動への参加率は6.1%
平成30年度の7.2%より1.1ポイント減、横浜市スポーツ推進計画の目標（10%以上）には3.9ポイント及ばなかった。活動へ参加しなかった（非参加者）割合は93.9%で、そのうち「関心はあるが活動していない」（以下、関心あり）が26.4%、「関心がないため活動していない」（以下、関心なし）が67.5%となった。
- 参加したスポーツボランティア活動の内容
「スポーツの指導・コーチ・審判員」（2.0%）、「イベント・大会などでのボランティア」（2.0%）、「地域のスポーツクラブ、競技団体等の運営補助」（1.5%）が上位となった。
- 参加動向
参加理由は「活動を通して友人や仲間を増やしたいから」（33.5%）、活動には「一人で」（43.0%）参加した割合が最も高い。今後参加するようになるきっかけは「時間に余裕ができれば」（22.1%）が1位となった。
- スポーツボランティア活動への参加者と非参加者の特徴
「参加者」は「男性」や「正社（職）員」の割合が「非参加者」よりも高く、「非参加者」は「女性」、「専業主婦（夫）」や「無職」の割合が「参加者」に比べ高い。スポーツ実施率（週に1日以上）は、「参加者」（79.8%）が「非参加者」（「関心あり」が68.3%、「関心なし」が48.7%）よりも高い。
「非参加者」のうち、「関心あり」はスポーツボランティア活動に参加するきっかけとして「時間に余裕ができれば」（40.8%）等を回答した一方で、「関心なし」は「どのようなきっかけがあっても参加しない・できない」（67.4%）が大半を占めた。

